

# 島根県立 古代出雲歴史博物館 NEWS

2008.JAN vol.4



## CONTENTS

- 2・3 企画展「よみがえる幻の染色」のご案内
- 4・5 展示室あれこれ／学芸員通信／テーマ研究より／古代出雲歴史博周辺今昔
- 6・7 ボランティア通信／イベントニュース／館長あいさつ／開館1周年
- 8 お知らせ／企画展スケジュール／悠久の庭から



# 企画展 よみがえる 幻の 沈木色



出雲藍板締めの世界とその系譜

平成20年3月7日[金]ー5月18日[日]



企画展

# よみがえる幻の染色

## — 出雲藍板締めの世界とその系譜

■ ジャパンブルーとして世界的にも知られる日本の藍。染文様の宝庫といわれる藍板締め染の世界へ誘う ■



### なぞ多き染色、出雲藍板締め

文様を彫った版木の間<sup>きれ</sup>に裂を挟んで染める「板締め染」は、奈良の正倉院に残された古代の裂が有名です。板締め染の特色は、同じ裂の中に同じ文様が繰り返し染められるところがありますが、日本では長く定着しませんでした。江戸時代になって、藍で染める「藍板締め」と紅色に染める「紅板締め」が庶民の染物として復活しますが、また消え去ります。中でも「出雲藍板締め」は、藍染による板締め資料として、全国で唯一確認されているもので、古代出雲歴史博物館では、約5,000枚に及ぶ藍板締めと、紅板締めの版木を所蔵しています。

展示では、古代から近代までの「板締め染」の系譜をたどるとともに、「出雲藍板締め」と「紅板締め」の多様な文様や、特色を紹介します。また、なぞの多い染色技術復元に挑戦した取り組みも紹介し、日本の染色技術が持つ魅力を存分に満喫いただきます。

会期 平成20年3月7日(金)～5月18日(日)

会場 古代出雲歴史博物館

● 観覧料

		当日券	団体券	前売券
一般	企画展	700円	560円	550円
	常設展	600円	480円	—
	セット券	1,000円	800円	800円
大学生	企画展	400円	320円	—
	常設展	400円	320円	—
	セット券	600円	480円	—
小中高生	企画展	200円	160円	—
	常設展	200円	160円	—
	セット券	300円	240円	—

【主催】 島根県立古代出雲歴史博物館  
島根県古代文化センター

【後援】 出雲市・朝日新聞松江総局  
毎日新聞松江支局・読売新聞松江支局  
産経新聞松江支局・日本経済新聞社松江支局  
中国新聞社・山陰中央新報社・新日本海新聞社  
島根日日新聞社・NHK松江放送局  
BSS山陰放送・日本海テレビ放送  
山陰中央テレビ・エフエム山陰  
山陰ケーブルビジョン株式会社  
出雲ケーブルビジョン・ひらたCATV株式会社

【協賛】 NTTコミュニケーションズ中国支店

※団体は20名以上です。  
※小・中・高生の学校教育活動での観覧は無料(観覧料減免申請書の提出が必要)です。  
※障害者手帳をお持ちの方、及びその付添いの方(手帳保持者1人につき、1人まで)は無料です。

企画展  
特別講座

第1回  
講座

3月16日(日)

「出雲藍板締め操業のなぞ」

島根県立古代出雲歴史博物館 専門学芸員 岡 宏三

第3回  
講座

4月13日(日)

「出雲藍板締めと京紅板締め」

元島根県古代文化センター 特任研究員 石塚 広氏

第2回  
講座

3月30日(日)

「出雲藍板締め復元の取り組み」

島根県立古代出雲歴史博物館 交流普及グループ課長 浅沼政誌

第4回  
講座

5月11日(日)

「日本の染色技術と板締め」

東京造形大学 教授 大橋正芳氏

【場所】 古代出雲歴史博物館講義室  
【時間】 各回とも13:30～15:00  
【定員】 各回先着100名

【申し込み】 電話、FAX、ホームページのイベント参加フォームにて受付。定員になり次第締切りとさせていただきます。

# I 「板締め染」の系譜

板締め染めは世界的に広く見られる技術ではなく、また、現存する資料も限られている染色です。おそらくは中国・インドあたりが発祥地であると考えられていることから、ここでは日本を含む東アジアにおける板締め染の歴史と特色を紹介します。

タンカ覆い布(個人蔵)  
※タンカとは、チベット  
仏教で使用される軸  
装の宗教画。



# II 「板締め染」の展開 ~幻の出雲藍板締めと京紅板締め~



出雲藍板締め版木



京紅板締め版木

江戸時代は庶民の色である「藍」と華やかさを象徴する「紅」の登場とともに、板締め染が改めて注目された時代です。「藍」と「紅」をキーワードに展示を構成し、板締め染がなぜ見直されたのかを示します。

しっかりとした構成と洗練された多様なデザインを満喫いただきます。

**藍板締め版木246枚と紅板締め版木96枚を一堂に公開するのは全国初**

# III

## よみがえる「出雲藍板締め」

復元工程を、復元品・道具類の展示とともに、映像などで追うことで、ほかの染色技法と比べて、いかに特殊で高度な技術を要したかを示します。



復元染色木綿布

### 関連体験企画

【場所】古代出雲歴史博物館体験工房

#### 〈連続ワークショップ〉 藍板締め染色体験(全5回)

- 第1回 3月20日(木)「藍がはじまる!(入門編)」
- 第2回 4月 6日(日)「藍を描こう(版木づくりⅠ)」
- 第3回 4月20日(日)「藍を描こう(版木づくりⅡ)」
- 第4回 4月27日(日)「藍に染まろう(本格的に染める)」
- 第5回 5月18日(日)「もっと藍を!(応用編)」

【時間】各回とも13:00~16:00 【定員】20名 【参加費】2,000円  
※版木の制作から染までの板締め工程を全5回にわたって体験する連続ワークショップです。(5回セットでのお申込み)※内容は変更になる場合があります。

#### ● 藍染体験イベント

- 第1回 3月23日(日)「藍を知る!」
- 第2回 3月29日(土)「あなたにも“藍”を!」
- 第3回 5月 4日(日)「藍をひろげよう!」

【時間】各回とも10:00~16:00 【定員】毎回20名  
【参加費】500円

申し込み 電話、FAX、ホームページのイベント参加フォームにて受付。定員になり次第締切りとさせていただきます。

# 面と獅子頭



能面 富田八幡宮所蔵

テーマ別展示「出雲大社と神々の国のまつり」では、小企画展「面と獅子頭」を開催しています。

舞楽や能楽といった芸能に用いられる仮面。神社には、そうした仮面の古いものがしばしば伝わっています。仮面そのものが神社に奉納されることもあったでしょうし、仮面を用いる芸能が神々にささげられることもあったでしょう。神幸（神霊の行幸）などの神事に用いられるようなものもあります。この小企画展では、島根県内の神社に伝わる中近世の面と獅子頭を紹介しています。期間は3月17日(月)までです。

おもな展示品

- 舞楽面  
須佐神社(出雲市)所蔵
- 能面  
富田八幡宮(安来市)所蔵
- 獅子頭  
横田八幡宮(奥出雲町)所蔵



加茂岩倉37号銅鐸の鈕につけられた「連続渦巻き文様」

## 銅鐸に描かれた文様をよむ

主任学芸員 岩橋孝典

テーマ別展示室「青銅器と金色の大刀」コーナーに居並ぶ弥生青銅器群の中で、ひときわ多くの文様で飾られているのが銅鐸です。中でも雲南市・加茂岩倉遺跡出土の39個の銅鐸群の中には、トンボ、シカ、イノシシ、カメ、人の顔など私たちが見ても理解できる絵画も表現されていて、弥生人の世界観や絵心に興味を惹かれるものです。また、銅鐸には三角形文様や水の流れを表現したような流水文、綾杉文様などさまざまな幾何学文様も付けられています。これらの文様は、祭りの道具として用いられる銅鐸に付けられていることから、神聖かつシンボリックなものとして弥生人の心を捉えていたと考えられます。

ここで、従来あまりかえりみられなかったひとつの文様に注目してみましょ。それは渦巻きをいくつも連ねた「連続渦巻き文様」です。この文様は加茂岩倉2、15、21、37号銅鐸の鈕（吊り手）に見られるもので、島根県外出土の銅鐸にも普遍的に見られる文様です。出雲地方で銅鐸が弥生時代中期末～後期初頭頃（1世紀）に埋納された後、この渦巻き文様はまず鳥取県東部で祭祀用の土器に忠実に転写されます。この祭祀用の土器はすぐに出雲地方にも伝播しますが、出雲地方で作られた土器には渦巻き模様は忠実に表現されていないのです。多くは「勾玉状文様」や「S字文様」「円形文様」などに変化していることから、出雲の弥生人は1世紀後半～2世紀前半には銅鐸のことを忘れていると思われるのです。あれほど大事にしていた銅鐸も、わずか2～3世代後の子孫には、忘却の彼方の存在になってしまうことに人の心の移ろいやすさを感じずにいられません。

## 出雲玉作の 特質に関する研究

テーマ研究「出雲玉作の特質に関する研究」は、古代文化センターの調査研究事業の1つです。この事業では、その名のとおり古代の出雲で作られた“玉”について調査研究を行っています。今も昔も、人はアクセサリーで身を飾ります。古代において盛んに作られた勾玉や管玉などの玉類は、単なる装飾品としてだけでなく、古墳の副葬品など権威の象徴として扱われました。

さて、古代の出雲は全国でも有数の玉生産地であり、現在のところ約100か所の玉作り遺跡が発見されています。出雲では弥生時代から古墳時代にかけて盛んに玉を生産しており、奈良時代にも玉作りを行っていたことが確認できます。今も「メノウ細工」が行われる松江市玉湯町には、玉の原材料となる良質なメノウや<sup>へきぎよく</sup>碧玉、水晶を産出する<sup>かせんざん</sup>花仙山（標高199m）があります。

この花仙山で採れる石材で作られた赤色や深緑色の玉、それから水晶玉が、出雲の玉の大きな特徴です。出雲で作られた玉は全国に運ばれており、全国各地の古墳から出土した玉を調べることによって、出雲の玉の流通先を特定することができます。このように、玉の製作地と消費地の資料を調査研究することは、玉の流通過程やその背景を知る手がかりにつながり、ひいては古代における社会構造の一端を解明する可能性も秘めているのです。

この研究成果をいかし、平成21年の春には古代出雲歴史博物館にて出雲の玉の企画展示を行う予定です。今年はいそがしい年になりそうです。  
(古代出雲歴史博物館主任学芸員 深田 浩)



松江市上野1号墳から出土した勾玉・管玉。赤色の勾玉はメノウ製で、透明感のある美しいものです。濃い緑色の管玉は、しま模様が華やかな碧玉製のものです。ともに花仙山産のメノウ・碧玉で作られたと考えられます。

## こ だ い い す も れ き は く ま わ り の い ま わ か し [古代出雲歴史博周辺今昔]

### 七本松の千本松遺跡



西神苑の千本松遺跡

松並木の参道を出雲大社に向かって進むと、左手西神苑のほぼ中央に松の林が見えます。この松林は「千本松の遺跡」と呼ばれており、江戸時代の初め頃、松江藩主堀尾忠氏の夫人長松院が願開きのため境内に千本の黒松を寄進されたとき、苗木の残りを補植用として集め植えられたものの名残と伝えられています。

博物館のテーマ別展示室にある天保杵築惣絵図（千家尊祐氏蔵）の出雲大社参道の左右に、神饌田に浮かぶ島のように2つの小さな森が画かれています。左の森がこの千本松遺跡で、よく見ると赤い鳥居がありますが、祀られている神様はわかりません。

この神饌田は、大正12年から昭和9年にわたって行われた神苑拡張工事の際に埋め立てられ草原になりましたが、黒松は残され今日に到っています。言い伝えの通りとすれば、その樹齢は380年前後ということになります。

(ふるさと案内人 馬庭孝司)

## ボランティア「バス視察研修」

古代出雲歴史博物館ボランティアスタッフの会研修班が企画した視察研修が、10月31日に行われました。

博物館の展示とかかわりのある史跡・文化財を視察し、今後の展示解説活動に役立つ知識を身に付けようということから、鳥取県の白兎神社、兵庫県の妙見山（日光院、名草神社）、出石城下町、生野銀山を訪ねました。

かつて出雲大社境内に建立されていた妙見山の三重の塔に、ボランティア一同感嘆の声を上げ、感慨深げに見入っていました。

バスを利用した遠方への研修は、ボランティアスタッフの会員相互の親睦をより一層深め、心温まる交流ができたと思います。



## [イベントニュース]

地域とともに、多彩に  
博物館イベント繰り広げる

### にぎやかに『古代出雲歴博秋まつり』

お 天気にも恵まれた11月3日・4日。プラザ会場では、『古代出雲歴博劇場』と題した神楽の上演や出雲阿国おどり、古代出雲クイズ大会に「神語」（かみがたり）。『神話の国のれきはく市』では、多数の皆様にご出店いただき博物館プラザが“にぎわい広場”となりました。

館内ホールでは、古代服・神楽衣装の試着体験が大好評でした。



### 『神在月ミュージアムスタンプラリー』を実施。

八 百万の神々が出雲に集まられるという「神在月」。(神々を迎えるまちめぐり)と題して出雲大社宝物殿や出雲文化伝承館など周辺のミュージアム施設などを巡るスタンプラリーを実施。(10月～11月) 約1ヶ月間で、864人の方に参加いただきました。

### 『弥生探訪バスツアー』～西へ、東へ!～

10 月から11月にかけての4回の土曜日、企画展「弥生王墓誕生」協賛事業として実施。出雲市の西谷墳墓群史跡公園や松江の田和山遺跡をはじめ、西は邑南町の順庵原遺跡、東は鳥取県の妻木晩田遺跡まで学芸員の同行解説で巡りました。

### 『冬休みはくぶつかん体験楽まつり』

「勾玉づくり」「凧づくり」、「古代米ワラのリースづくり」「古代米を使った古代食クッキング」などをたくさんのボランティアの皆さんの協力により実施しました。(12月23日)

### 『博物館にもはつもうで』古代出雲歴博新年まつり

平成20年1月1日～3日、お正月あそびの「凧揚げ」「羽根つき」「独楽まわし」「カルタとり」から「こども番内衣装着付け体験」「古代米もちつき大会」まで多彩な催しを実施。期間中には来館者40万人達成もあり、博物館の新年のにぎやかなスタートとなりました。

秋色の博物館

博物館の迎春



NEW 705i

SLIM \* DESIGN

## 「2年目のジンクス」を吹き飛ばして!

古代出雲歴史博物館館長 金 築 孝



あけましておめでとうございます。遅ればせながら、新年のご挨拶を申し上げます。

おかげさまで、古代出雲歴史博物館は昨年3月の開館後初めてのお正月を、40万人目のご入館の方もお迎えして、無事迎えることができました。これからいよいよ開館2年目を迎えます。1年目は、新しくできた博物館ということで、物珍しさからご来館なされた方も相当いらっしやっただと思いますが、今年はそうはいきません。2年目のジンクスという言葉がありますように、今年はこの博物館の真価を問われる年です。

そこで、何をするか?といっても秘策も何もありません。みなさまの古代出雲歴史博物館は、内容的にはどこに出しても恥ずかしくないものを持っていると自負していますが、それに慢心することなく展示にいつそうの工夫とブラッシュアップに努め、さらにあらゆるサービスの充実を図り、楽しいイベントも組み込みながら、常に新鮮で、わかりやすく楽しい博物館の実現を目指す、こういうことに尽きるのではないのでしょうか。

今年、出雲大社では4月に仮遷座祭が行われ、また秋には出雲を舞台としたNHKの連続ドラマが始まるとも聞いています。このような追い風を受け、2年目のジンクスなんてものは吹き飛ばし、ご来館のみなさまを笑顔でお迎えしたいと考えています。みなさま、今年もどうぞよろしく願いいたします。

## おかげさまで

# 開館1周年

古代出雲歴史博物館開館1周年  
皇學館大学創立130周年・再興50周年記念事業

島根県立古代出雲歴史博物館・皇學館大学共同講演会

## 『伊勢神宮と出雲大社の遷宮に学ぶ』(全5回)

第1回 特別講演・座談会

### 伊勢・出雲の神々と日本文化

【日時】4月26日(土) 12:30~17:00

【場所】ビッグハート出雲 白のホール

【定員】先着300名

【講演・座談会】

皇學館大学 伴 五十嗣郎 教授/学長(神道学)・岡田芳幸 准教授

出雲大社 千家和比古 権宮司

古代出雲歴史博物館 上田正昭 名誉館長(古代史)

第2回

### 神宮の式年遷宮と出雲大社造営の歴史

【日時】5月24日(土) 13:00~16:00

【場所】島根県立古代出雲歴史博物館講義室(以後同じ)

【定員】先着100名(以後同じ)

【講演】皇學館大学 井後政晏 教授(神道学)

出雲大社 千家和比古 権宮司

申し込み 電話・FAX・ホームページのイベント参加フォームにて受付。 ※定員になり次第締切りとさせていただきます。

3月9日(日)

開館一周年記念講演会

『よみがえる

古代出雲 再発見』

上田正昭 名誉館長

※大社文化プレイス

14:00~16:00

3月23日(日)

開館一周年感謝祭

『古代出雲歴博

~春の園遊会~』

※「だんだん劇場」や「にぎ

わい市」など楽しい催

事を企画しています。

3月10日(月)

開館記念日

『だんだんデー』

感謝のきもちをこめて

皆様をご招待します。

※観覧料無料

第3回

### 伊勢神宮と出雲大社の祭儀と建築

【日時】6月28日(土) 13:00~16:00

【講演】皇學館大学 清水 潔 教授/文学部長(古代史)

古代出雲歴史博物館 錦田剛志 専門学芸員(祭祀考古学・神道史)

第4回

### 伊勢神宮・出雲大社の創祀と出雲神話の世界

【日時】7月19日(土) 13:00~16:00

【講演】皇學館大学 渡辺 寛 教授(古代史)

古代出雲歴史博物館 森田喜久男 専門学芸員(神話学・古代史)

第5回

### 伊勢信仰と出雲信仰

【日時】8月30日(土) 13:00~16:00

【講演】皇學館大学 岡田 登 教授(神宮史)

古代出雲歴史博物館 品川知彦 専門学芸員(宗教社会学)

NTT西日本

「光」ひろがる。ひびきあう。

古代「伝える気持ち 和歌に託して」

現代「伝える気持ち インターネットに託して」

# 光ある未来を島根に!

セキュリティ標準装備

フレッツ 光プレミアム

+

月額使用料がおトクな光IP電話

ひかり電話A

0120-116116  
【受付時間】午前9時~午後9時まで

提供エリアの詳細など詳しくはブロードバンド専門サイト「SHIMANE Flet's Club」で

<http://www.ntt-west.co.jp/chuugoku/shimane/>

NTT西日本島根支店

# おすすめします。古代出雲歴博パスポート！

## 『年間パスポート』で、いつでも、なんどでも…

大好評のパスポートに新たなサービスが加わります。「古代出雲歴博ニュース」の送付は別サービスとなります。

### パスポート会員

会費  
1,500円  
(1年間)

- 展示観覧年間フリーパス
- 年間企画展・イベント情報のご案内
- 博物館ご縁サービス(観覧割引券10枚進呈)
- だんだんプレゼント(毎月の購入者のうち抽選で5名の方にグッズ進呈)

“ご縁”と“だんだん”でひろがる  
古代出雲歴史博物館の輪！

### ニュース会員

会費  
500円  
(1年間)

- 「古代出雲歴博ニュース」年4回送付
- 年間企画展・イベント情報のご案内
- 博物館ご縁サービス(観覧割引券5枚進呈)

4月からの新パスポートの発行について  
お知らせとご案内  
あなたも、『はくぶつかん通』

パスポートカードに、新たに  
ご縁サービス・だんだんサービス！

プラス500円

### パスポート・ブロンズ会員

会費  
2,000円  
(1年間)

パスポート会員サービスに加えて

- 「古代出雲歴博ニュース」年4回送付
- ご縁ブロンズサービス(常設展無料観覧ペア券進呈)
- 博物館だんだんサービス(ショップ5%・カフェ10%割引サービス券5枚進呈)  
※但しショップの一部商品(食品及び書籍)は除く

## 古代出雲歴史博物館 入館者50万人達成日を当てよう！

【応募方法】博物館内所定の用紙か古代出雲歴史博物館宛のハガキによる申し込み。氏名・住所・電話番号を明記のうえ、達成予想日「〇月〇日」を記入してください。お一人様1通に限ります。

【応募期間】2月1日(金)～2月29日(金)まで。

【各賞】雲太賞(月日正解者)1名、勾玉賞(前後日)2名、銅鐸賞20名～ミュージアムグッズなどの景品有り。各賞とも多数の場合抽選により決定。当選者は、館内掲示、ホームページで発表します。

## 企画展のご案内

平成20年	特集展「新発見!とっとり・しまね発掘速報展」
2月	平成20年1月18日(金)～2月18日(月)
3月	企画展「よみがえる幻の染色」
4月	～出雲藍板締めの世界とその系譜～
5月	平成20年3月7日(金)～5月18日(日)
6月	特集展「絵でみる考古学～早川和子原画展～」
7月	平成20年5月31日(土)～7月6日(日)
8月	特別展「聖地★巡礼—自分探しの旅へ—」
9月	平成20年7月26日(土)～9月15日(月)
10月	企画展「秘仏への旅—出雲・石見の観音巡礼—」
11月	平成20年10月4日(土)～11月30日(日)
12月	

特集展は常設展チケットでご覧いただけます

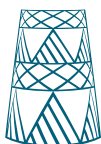
## [悠久の庭から]

古代出雲歴史博物館が開館して約1年。博物館のスタッフにとって、この1年はまさに激動の1年でした。開館記念特別展「神々の至宝」や企画展「弥生王墓誕生」など、3年以上も前から準備に準備を重ねてきた展覧会も、始まってしまうとあっという間に2か月ほどの会期が過ぎ去っていきます。そして、余韻にひたる間もなく次の展覧会の設営などに着手です。

そんな毎日ではありますが、博物館に勤めていると、いろいろな想いにひたる瞬間があります。展示された数多くの土器、錆びた青銅器や鉄器、さまざまな表情の埴輪、変色した古文書。それらが私たちに語りかけてくるもの、それは歴史を刻む時の流れであり、人の命のはかなさであり、人間の営みの偉大さです。忙しい毎日の中、ふとその声を耳にすると、深い感慨を覚えずにはおれません。

そんな声を聴きに、皆さんも博物館においでになりませんか。

発行/平成20年1月



島根県立古代出雲歴史博物館  
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4  
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350  
URL: http://www.izm.ed.jp  
E-mail: contact@izm.ed.jp



マスコットキャラクター  
雲太くん



マスコットキャラクター  
出雲ちゃん